



学校だより 山鳩

【年賀はがき3等当選者による校長室「お茶タイム」(下)、縄跳びシーズン始まる(中)、1/22(木)4年：国語校内授業研究(右)】



← 1/22 : 「ようこそ1年生」
 ・ 6名の子どもたちとお茶を
 ↑ 1/20 : サンスポタイム
 体育委員会の跳び方指導
 ← 1/21 音楽朝会：全員合唱
 卒業式に向け練習始まる。

子どもたちも地域の方も元気です 校長 小林 修

◆1/21(水)は、今冬一番を思わせる寒い朝でした。玄関で待っている私に、5年のA夫君が、「ほらっ」と手に乗せたものを見せてくれました。見ると3cm以上は長さのある『霜柱』です。「おっ、霜柱だ。どこにあったの?」と、A夫君に尋ねると「大黒亭(八幡様前)の前の空き地の…」と言いながら教室へ行ってしまいました。さらに、その後からやってきた3年生のB夫君は両手でかかえるように、霜柱というより、辺りの土を丸ごとたっぷりと持って来ました。凄い子どもです。それにしても霜柱は珍しいです。近年は見ることはほとんどありませんので、私は童心にかえり(いや、いつも童心のままですが)どんなふうに出たのか見たくて20分休みに行ってみました。10時半過ぎでしたが、教えてもらった場所に、B夫君が持って来たままの姿でありました。土の駐車場(空き地)の入口付近が湿っていて、そこが昨夜からの冷えこみで凍って霜柱になったのでしょうか。でも、手袋はしていても冷たいのに、よく持って来てくれた二人です。寒さに負けない子どもたちが大好きです。

◆先週(19日からの週)は、インフルエンザの流行で、市内のいくつかの学校で学級閉鎖や学年閉鎖が行われていました。三条小も風邪症状でお休みの子どもが出てきていましたので心配をしていたのですが、21日(水)は、風邪症状での欠席者が一人もいませんでした。この日は上述のように寒い日でしたが、放課後は山鳩キッズ開催日でした。保護者の山口さん、地域ボランティアの吉田敏子さん、佐藤さん、五十嵐さんがこの日の担当で、バドミントンや羽根突き、ボール遊び等をして4時過ぎまで子どもたちと体育館等で遊んで下さいました。私が皆さんに教えたいのは、参加していた子どもの数です。体育館で30数名がおりました。プレールームで卓球、児童クラブ室でゲーム等をやっていた子どももおります。全校の半数近い子どもが参加をしていました。やりたい遊びや運動が思いっきりやれる。これは、保護者や地域の皆さんのお蔭です。市内で、教室を石油ストーブで暖房しているのは三条小だけのようなのですが、子どもたちはボランティアの皆さんの支援でたくましいです。(裏面へ)

【3年生の活動紹介：(左)1/21 転入の長岡龍之介君「歓迎お楽しみ会」(中右)1/14 愛育日に「親子クッキング教室」を実施】





【1/21：4年
伝統工芸体験
仏壇組合さん
による金箔貼り
蒔絵体験教室】

(表面続き) 校舎全部が集中管理システムで、全館いつも暖かいという学校もよいですが、「遊びや運動で体を動かし、鍛えて健康に過ごすということが、子どもの成長には欠かせないのではないか。」と、私は考えます。以前もこの「山鳩」で書きましたが、冬場、建物の中や軒下に置かれたパンジーと外で風雪の下に置かれたパンジーが春になり、どちらが綺麗な花を咲かせるかといえば、外の厳しい自然環境の中に置かれたものが、より美しく綺麗に咲くといえます。三条小の子どもは素晴らしい地域の皆さんに見守られ支えられていい育ちをしています。

私たちが元気をもっているのです… 中條耕二さんから「ふるさと教育」の始まりをお聞きします。

◆そして、このことは子どもたちだけではないのです。地域の皆さんも子どもたちとの交流で元気いっぱいです。私の大好きな吉田敏子さん（前述した八幡小路の民生委員さん）も吉田久一郎さん（四ノ町自治会長さん）も失礼ですが、私よりは高齢でいらっしゃいますが、子どもたちとバドミントンや野球、バスケットボール等のボール運動もとっても一生懸命やって下さるのです。冬場の寒い時期です。私が、「無理をされないで下さいね。」と言いますと、少年少女のような真っ赤なほっぺで、くりくりとしたかわいい瞳で、「いえいえ、私たちがこの子たちから、元気をもっているのです。いい運動になります。」と、ここにこの笑顔で言われるのです。お二人だけではありません。山鳩キッズに関わってくださっている多くの皆さんも同じように言われるのです。また、運動が出来る人だけが子どもとの交流で元気が生まれるわけではありません。病気で心身が思うようにならなくなった高齢者の方も「子どもの声を聞くだけ、子どもがそばにいてだけで活力が湧くんです。」と以前に、長和園に勤務する方から聞いたことがあります。三条小では「かじまちの家」との交流活動もやっています。『三条小学校は、高齢者とともにある元気で優しい学校であり、子どもたちだ。』と強く思います。地域の皆さん（大人）が手本になり、「みんなの住んでいる地域(ふるさと三条)は素晴らしいところなんだよ。」と、ともに活動する中で教えて下さるから、三条小学校の子どもは、ここに暮らす人が好きで三条を誇りに思う心が育まれているのです。

◆現在、文科省・県教委・市教委から「各学校で、地域とともに特色ある教育活動を推進し、地域(ふるさと)を学ぶことで、自分の暮らすふるさとが好きになり、ふるさとに愛着と誇りが持てる子どもを育成する。」ことが求められています。三条小学校では、保護者・地域の皆さんのご支援・ご協力の下、この『ふるさと教育』を学校教育の根幹をなすものとして40年も前から強力に推し進めてきました。「ふるさと教育は三条小学校の代名詞」になっています。この地域の伝統を学ぶ活動がどのようにして始まったのでしょうか。このことについて、2月1日（日）の学習発表会、餅つき大会、地域の先生に感謝する会に引き続き、中條鋼材会長さんの中條耕二さんから「ふるさと運動の心」と題してお話を頂きます。ぜひ、多くの皆さんからご講話をお聞き願いたいと思います。

◆また、ふるさと学習の取組の一端が、このページの上下の写真です。上の写真は、三条の伝統工芸品である「三条仏壇」を作っている仏壇組合の皆さんの指導で、4年生が金箔塗りや蒔絵の体験を行った様子(1/23 実施)です。

子どもたちの真剣な様子や「楽しい」という表情が写真からよく伝わります。私(小林修)も金箔を一枚貼らせて頂きましたが、緊張で手ががちがちでした。また、下の写真は6年生の職場体験の様子です。鍛冶道場(写真右)や羽生文具店さんなど、毎年のようにご協力を頂きご指導をお願いした事業所も多いのですが、今年は学区にあるローソン(コンビニ)さんやカフェ・トュジュールさん、ヘアデザイン・モモさん、丸山電機さんからもご協力を頂きました。子どもたちの表情は働く楽しさでいっぱいです。このことは、事業主さんの優しさにあふれる表情がすべて教えてくれています。ご協力を頂いたすべての事業所の皆さん、本当にありがとうございました。

【1/16(金)6年職場体験学習：ローソンでレジ体験(左)、トュジュールで接客体験(中)、鍛冶道場で包丁とぎ体験(右)】

